

きょうの福音 (マタイ 18・15-20)

お互いに忠告し合おう

滝野 正三郎

忠告

わたしたちは、だれでも人から忠告されるといやなので、すぐにおこってしまいます。

人の足りない点はよく気がついて、人を責めたりしてしまふのに、自分のことになると、自分ではなかなか気づかないでいることが多いですね。

ここで素直な気持ちになつて、人からいつもどんなことを忠告されるか次に書いてみましょう。

自分では認めたくないことですが、わりといるなことで、自分の足りないことを、周りの人が見ている忠告してくれているのですね。

人から忠告されても、それを受け入れず、すぐに忘れようとしてしまうと、なかなか、自分の欠点や、まずい点を直していくように努力しなくなります。

兄弟の忠告

わたしたちが、互いに兄弟のように相手のこと思っているなら、えんりよせずに、お互いの足りない点や悪い点を忠告しあうことが大切です。

ただ、この場合、お互いに、相手のことを責めるようになつてしまうと、かえつて、忠告しなかつたほうがよかつたという結果になつてしまいます。

まず、わたしたちに求められていることは、自分もふくめて、お互いに、少しでも成長しようという気持ちを持つことです。

今の自分の現状に満足していて、それを変えたくないと思つている人に、ただ忠告しても、かえつておこ

らせるだけに終わってしまいます。

まずそのためには、お互いに相手のことを知るよう
に努力することが大切です。

その人がなぜそのような行動をしたのか、何か原因
があるはずです。結果だけ見て、責めるのではなく、い
っしょに原因を探ることが大切です。本人一人では、
その原因をとりのぞくことができなことがありません。

お互いのきさえがあつてこそ、自分も変わりたい、
成長したいと思うものです。

教会

きょうの福音の最後に、「二人または三人がわたし
の名によって集まるところには、わたしもその中にい
るのである」という言葉があります。

これは、教会のことをさして言われた言葉です。教
会は、もともと「集まる」という言葉からできてきた
のです。

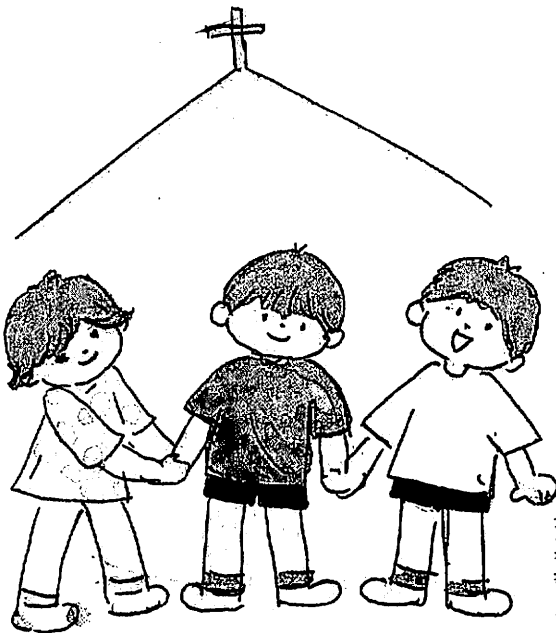
しかも、ただ集まるのでなく、イエスの名によって
集まるところが教会と言われています。

しかし、その教会の中で、本当に、兄弟同士忠告し
あっているでしょうか。

ただ集まって来て、みんなでいっしょに神さまに感
謝しているだけでは足りないのです。

神さまを通して、お互いが兄弟として招かれている
のです。兄弟のことを何も知らずに、ただ、神さまに
向かってお祈りしているだけでは足りないのです。

集まって来ている者同士で、まずよくお互いのこと
を知りあい、忠告すべきところは、お互いに忠告し合
って、よりよい集まり（教会）にしていきましよう。



(京都教区司祭)